

水 産

1 学習指導と評価の改善・充実

～ キャリア教育の視点を踏まえた学習指導等の工夫～

(1) 水産教育におけるキャリア教育の必要性

近年、産業・経済の構造的変化や雇用の多様化・流動化等により、就職・就業をめぐる環境が急激に変化している。一方では、ニートやフリーターと呼ばれる若者が増加するなど、勤労観・職業観の低下や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質をめぐる課題が指摘されている。このような中、生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を身につけさせ、将来の水産業界の担い手となるための勤労観・職業観を育てるキャリア教育の推進が求められている。

教科「水産」においては、専門科目の基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、水産業界や海洋関連産業の充実と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目標とし、水産業界のスペシャリストの育成を目指している。そのため水産高校においては、生徒が将来、社会人・職業人として、主体的に自分の人生を生きるために必要な能力や態度、知識を学校の教育活動全体を通して育てるキャリア教育を教育課程に位置付け、3年間を見通した学習プログラムを作成するなど、キャリア教育を踏まえた学習指導や進路指導等を計画・実践・評価する必要がある。

次に、教科「水産」におけるキャリア教育の視点を踏まえた指導内容及び方法の工夫・改善などについて示す。

(2) 水産教育におけるキャリア教育の視点を踏まえた取組例

ア マナーの習得

生徒が学校生活から職業生活へとスムーズに移行するためには、挨拶や敬語の使い方など社会人としての基本的なマナーを在学中に身につけることが必要である。これまでも担任や生徒指導部を中心にマナーの意義や必要性について指導してきたが、社会人としてのマナーの取得等を、教職員の共通理解のもと、教育課程の重点目標の一つに位置付け、すべての学校生活で取り組ませるとともに保護者、地域住民の協力を得ながら家庭生活等でも取り組ませることが大切である。

イ 資格取得

職業高校において、生徒が学科と関連する職業資格の取得を目指すことは、授業に対する関心・意欲を高め、さらに資格を取得したときには、努力することの大切さ、取得した喜びや自信を得ることができるなど、生徒のキャリア形成を図る上で教育効果が大きい。

このことから、水産教育においても、科目の内容に関連する資格、例えば、海技士、小型船舶操縦士、潜水土、冷凍機械責任者、危険物取扱者、ボイラ技士、総合無線通信士、情報処理技術者等の取得を目指した指導計画を作成し、実施しているが、生徒一人ひとりのキャリア発達を支援するため、授業と関連する資格がどのような職業に

結びつくのかを明確にし、その資格を取得するための効率的な学習方法を個に応じた指導することが大切である。

ウ インターンシップ

インターンシップは、望ましい勤労観・職業観を育てる上で、教育効果の高い教育活動であり、水産高校では平成18年度からすべての学校において、生徒が卒業までにインターンシップを経験する教育課程が編成され、実施されている。

インターンシップの実施に当たっては、入学当初から礼儀作法などのきめこまやかな指導や受入企業と連携を図った事前指導、インターンシップ実施中の組織的な指導、さらにインターンシップの実施状況について生徒や保護者、企業担当者に行ったアンケート調査結果を用いて事後指導を行うなど、3年間を見通した指導計画を作成する必要がある。

エ 乗船実習

乗船実習は、生徒が実習船という限られた空間の中で寝食を共にし、班毎の食事当番や全員が共同して漁労作業に取り組むことなどにより、生徒一人ひとりの自立意識や他者との好ましい人間関係を育むほか、夜間等の漁労作業の厳しさや、やり遂げたときの充実感を体験することにより、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせることができる。さらに時化の中での航海は生徒に生命の大切さや自然への畏敬の念を育てることができるなどの特徴があり、水産高校に入学したすべての生徒に体験させている。

このように水産教育の乗船実習は、生徒のキャリア発達を支援するための方策として重要な役割を果たしているが、これまで以上に船員や教職員との共通理解を図り、キャリア教育の視点を乗船実習における具体的・効果的な指導内容や指導場面に明確に位置付ける必要がある。

オ 教科指導におけるキャリア教育

高等学校における職業教育は、職業の各専門分野に関連する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、実践的・体験的な学習を通して、将来の職業に必要な基礎を培うとともに、望ましい勤労観・職業観を育て、社会の発展に貢献する職業人を育成することをねらいとしていることから、教科「水産」の専門科目で学習する内容は、具体的な職業に従事したときに求められる知識や技術と深いかわりを持っている。

例えば、科目「漁業」の「漁業の技術」、「漁業と漁業経営」の項目では、漁業後継者や漁業に従事することを目指す生徒に、漁業経営の魅力や手腕、必要な資格などを身に付けさせるための適切な指導を行うこと、科目「水産流通」では、水産物流通にかかわるさまざまな職業について、そこで必要とされる知識や技能を関連づけながら、臨場感のある指導を行うこと、さらに、科目「漁船運用」の「乗組員の編成と職務」の項目では、船舶の乗組員を目指す生徒に、乗組員の編成と当直などの職務、航海日誌の概要などを船員法等と関連づけて具体的な指導を行うことなどが考えられる。

また、学校での講義等と企業での実習を組み合わせるデュアルシステムを導入すると、さらに職業と科目との関連を明確にすることができる。

したがって、指導する教員は、教科「水産」の専門科目の学習内容と関連する職業

についての理解を深め、会社等での具体的な作業等をイメージしながら指導するとともに、自らの職業理解を深めるため、自己研鑽を図る必要がある。

教科「水産」の科目の内容と関連する職業とキャリア教育を踏まえた指導上の工夫（例）

科目名	関連する職業	キャリア教育を踏まえた指導上の工夫
「漁業」	漁業後継者、漁船乗組員	実際の漁業の技術や漁業経営方法に重点を置いた指導を実施する。
「水産流通」	水産卸売り市場関係者、水産物販売員	水産物の流通・サービスに重点を置いた指導を実施する。
「漁船運用」	船舶従事者	船舶の乗組員としての職務に重点を置いた指導を実施する。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ キャリア教育の視点を踏まえた学習指導の改善・充実～

(1) キャリア教育の視点を踏まえた具体的な学習指導

現在行われている学習指導に、明確な形でキャリア教育の視点を加えることにより、生徒に具体的な職業観を形成するとともに各教科に対する興味・関心を高め、学習意欲を向上させることにつながると考えられる。

水産高校において、学習指導要領に示されている「望ましい勤労観・職業観の育成」は、日々の教育実践の中で行われているが、専門的な知識・技能を習得させることに重きが置かれていた感がある。そのため、シラバスにキャリア教育の視点を加え「平成15年度教育課程編成・実施の手引」に掲載し、具体的な学習指導案を例示した。

今まで無意識に行われていたキャリア教育を意識しながら行うことにより、生徒一人ひとりのキャリア発達をより充実させ、「確かな学力」を育成させることができるようになる。

(2) キャリア教育の視点を踏まえた科目「水産基礎」のシラバス

教科名	水産	科目名	水産基礎
科目の目標	水産や海洋に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、水産業や海洋関連産業が国民生活に果たしている役割を理解する。		
履修学年	1学年	学 科	学科
単位数	4単位（座学2単位・基礎実習2単位）	授業形態	一斉授業又はグループ別学習等
教科書	水産基礎（海文堂）	副教材等	
1 学習の目標	<p>科目「水産基礎」は、本校の3年間で学ぶ水産や海洋に関する各科目の中の基礎的な科目です。</p> <p>(1) 水産や海洋に関する各科目を学習する上での最も基礎的・基本的な知識と技術を習得し、水産・海洋全体についての理解を深めます。</p> <p>(2) 水産業や海洋関連産業が我が国の経済社会の中で重要な役割を果たしていることを理解します。</p> <p>(3) 実験・実習、見学及び実習船による体験乗船などの実際の・体験的な学習を通して、専門科目を学ぶ積極的な態度を身に付けます。</p> <p>(4) 水産業に関連する職業に対する理解を深めるとともに、実習等を通して、望ましい勤労観・職業観を育成します。</p> <hr/> <p>生徒が職業選択の視野を広く持つことができるよう、水産業等に関連する職業について指導する。また、実習等を通して集団における個の重要性や協調性、忍耐力、礼儀作法など社会人・職業人としての資質の育成を図る。</p>		

2 学習内容と進め方
<p>1に掲げた学習の目標を達成するため、次のような内容の学習を行います。</p> <p>(1) 実験・実習や観察を通して、自分の目で見、実際に手に触れて「海、水産物、船」の全体を体験し理解する学習を行います。実際に体験することにより得られる、確かな知識や技術の身に付け方を学びます。</p> <p>(2) 海や地域の環境調査などを通して、水質保全や環境保全などの基本的事項を学習します。</p> <p>(3) 食生活や海洋性レクリエーション等の身近な具体的事例を通して、水産業や海洋関連産業の重要性を学習し、各種関連産業の内容や動向を多面的にとらえることにより、将来の職業観の育成に役立てます。</p> <p>(4) 基礎実習を通して、水産や海洋に関する基礎的な技能を習得する学習を行い、自己の能力・適性について理解します。</p> <p>(5) 特に、操艇や体験乗船実習では、船に関する基礎的な知識を習得するとともに、集団の一員として必要な協調性、体力、気力を養う学習を行うとともに、基本的なマナーを含めた望ましい勤労観を形成します。</p> <p>(6) 3年間で学ぶ 学科の基礎的な課題を設定した実習を行い、自分で物事を選択する力や、自分で設定した課題を解決する力を身に付けます。</p> <hr/> <p>座学において水産業や海洋関連産業について詳しく学習することはもとより、工場見学・市場見学や体験乗船実習を通して、1年生の段階から各種関連産業に対する興味・関心を育て、その後の専門科目に対する学習意欲や資格取得に対する意識の向上につながるような内容を明記する。また、実体験を通じた学習を中心に、課題解決能力や勤労観の育成につながる学習内容となることもあわせて明記する。</p>

3 学習の留意点
<p>学習を行う際、次のようなことに気を付けると、知識やコミュニケーション能力・周りの環境の変化に対する柔軟性などの力が身に付きやすくなり、社会生活での規範意識の勉強にもなります。</p> <p>(1) 身近な自然や地域社会と関連付けて学習を進めると理解が深まり、より確かな知識を身に付けることができます。</p> <p>(2) 観察や実験・実習を通して疑問に感じたことや興味を持ったことについては、自分で進んで資料を収集し、その成果を積極的に発表する態度が大切です。これは、将来社会に出たときにとても重要になる問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けるために役立ちます。</p> <p>(3) ノートは板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたことや感じたことなどをメモしたり整理すると、学習に広がり生まれ、問題解決能力や応用力が身に付きます。</p> <p>(4) 海上での実習は、気象・海象の変化により学習内容が変更される場合があり、常に周りの状況を把握していることが大切です。自然環境などの変化に気付き、素早く対応する力が身に付きます。</p> <p>(5) 体力的・精神的に厳しい内容の実習もありますが、仲間とともに克服すると連帯感が深まり、忍耐力も身に付きま す。そして、集団の中での自分の役割・重要性を理解できるようになります。</p> <hr/> <p>キャリア発達の重要な要素となる、個人の資質を向上させるため、日々の1時間ごとの学習に対する取組姿勢を明記する。学校教育を離れたあとも自らの力で「キャリアアップ」していける能力を養える学習方法になるような留意点を明記する。また、それぞれの留意点が、どのようなキャリア発達につながるかを具体的に明記する。</p>

4 評価の方法
<p>本校では、(1)～(4)のそれぞれの観点について、次のような評価方法を用いてみなさんの学習状況を評価します。(5)については評価(点数)には加えませんが、みなさんの毎時間の取組や学期を通しての変化をしっかり見ていきます。</p> <p>(1) 関心・意欲・態度：水産や海洋についての基礎的な知識や技術の習得に意欲的に取り組む態度が身に付いたか。 評価方法 グループワークでの活動の様子 課題プリントやレポートの作成状況 実験・実習中の活動の様子</p> <p>(2) 思考・判断：水産や海洋に関する諸課題を主体的に解決する能力と態度が身に付いたか。 評価方法 実験・実習のレポートや発表の様子 授業中の活動の様子</p> <p>(3) 技能・表現：水産や海洋についての基礎的な技術を習得したか。 評価方法 実験・実習や観察におけるまとめや発表 課題作品の作成状況</p> <p>(4) 知識・理解：水産や海洋についての基礎的な知識を身に付けたか。 評価方法 小テストや課題プリント 定期考査など</p> <p>(5) キャリアの発達：望ましい勤労観・職業観が一人一人の個性に応じて身に付いているかを、日々の学習に対する取組や年間を通じた変化で評価(点検・確認)します。</p>

5 授業計画	水産基礎 第1・2・3章 (座学2単位)			
月	単 元	具体的な学習内容	評価の観点	考 査 等
4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標や内容、学習の仕方、評価の方法等を理解します。 授業の準備、始業・終業の挨拶、発表の方法等の授業に取り組む姿勢を理解します。 	<p>【キャリア発達】</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶がしっかりできたか。 人の話をしっかり聞き理解することができたか。 自分の意見をしっかりと伝えることができたか。 <p>以下の全ての単元で行う。</p>	
	第1章 海のあらまし 1 海と生活 1.1 人間と海 1.2 海と文化	<ul style="list-style-type: none"> 海とのかかわりが人間の生活に大きく影響していることについて理解します。 海とのかかわりにより日本の文化がいかに発展してきたかを理解します。 海洋環境の保全と水産資源の維持の大切さについて考えます。 古くから、海にかかわる産業にはどのようなものがあるか調べます。 最新の技術を生かした産業の場として、海の利用方法について考えます。 各種産業に結びつく資格にはどのようなものがあるか調べます。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海と人間とのかかわりに興味や関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海を歴史的、文化的、経済的、科学的など多面的に考え、理解している。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋環境保全などの課題を自らの生活と関連づけて考えている。 <p>【キャリア発達】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海にかかわる産業にはどのようなものがあるか正しく理解している。 課題解決に向けて、積極的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 課題プリント

11	第2章 水産業と海洋 関連産業のあら まし 3 水産物の加工と 流通 3.1 水産物の特性 3.2 魚介類の鮮度 3.3 水産物の処理 と加工 3.4 主な水産加工 食品 3.5 水産食品の流 通	<ul style="list-style-type: none"> 水産物の特性や鮮度について理解します。 水産物の処理・加工の目的や方法について理解します。 水産加工食品の種類と特徴について理解します。 <u>水産食品工場等の見学を通して流通機構、流通技術、品質管理なども理解し、水産食品関連産業への理解を深めます。</u> <u>水産食品関連産業で必要な資格にはどのようなものがあるか。また、それはどのような場所で使われているかを調べます。</u> 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産物の特性や貯蔵、加工、流通、販売に関する基礎的な事項を理解している。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品工場の見学等を通して、食品衛生管理の重要性を理解している。 <p>《キャリア発達》</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>水産食品関連施設の見学を通して、これら産業の仕事の内容を理解している。</u> <u>グループでの調査・観察、見学等で協調性を持って実施している。</u> <u>見学場所で働いている人とコミュニケーションをとっている。</u> <u>レポートの提出、発表等に自分なりの工夫が見られる。</u> <u>将来のあるべき姿を考えて定期考査のための準備等に取り組んでいる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト グループワークの観察 発表の観察 レポート提出 定期考査 ノート提出
5	授業計画	水産基礎 第4章 (基礎実習2単位)		
月	単 元	具体的な学習内容	評価の観点	考 査 等
5	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 実習に対する心構え(服装・体調・準備・集合など)を理解します。 実習時の集合・挨拶の練習を行います。 	<p>《キャリア発達》</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>挨拶をしっかりとっている。</u> <u>集合・解散等の時間を厳守している。</u> <u>集団の中での協調性を身に付けている。</u> <p>以下の全ての単元で行う。</p>	
6	第1章 基礎実習 (共通実習) 1 操艇 1.1 カッター (1) カッターの概要 1) カッターの構造と各部の名称 2) 艇内の整とん 3) 艇員の編成と配置 (2) 各種号令とこぎ方 (ローイング)	<ul style="list-style-type: none"> 安全に対する心構えを理解します。 集団の一員として必要な協調性、体力、気力を養います。 海と船に対する理解を深めます。 カッターの構造と各部の名称について理解します。 各種の号令と操舵方法について理解します。 こぎ方(ローイング)の技術を身に付けます。 <u>カッターを動かすためにはどのような資格が必要か。また、実習中に航行していた他の船舶を動かすにはどのような資格が必要か調べます。</u> <p>*天候や海象により海上・屋外での実習を変更する場合があります。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 操艇の注意事項を守り、安全を確保するとともに、集団の中で協調性を発揮するなど、意欲的に実習に取り組んでいる。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> カッターの構造や各部の名称、各種の号令について理解している。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 操艇に関する基礎的な技術を習得し、正しいこぎ方を身に付けている。 <p>《キャリア発達》</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>技術を身に付けるための、「見て・聞いて・やってみて」といったことを実践している。</u> <u>一人の力が、船(集団)全体に与える影響について、十分に理解している。</u> <u>自然を含め、危険への対処方法を身に付けている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の観察 小テスト 課題プリント
9	4 体験乗船 4.1 体験乗船の心得 4.2 体験乗船の内容	<ul style="list-style-type: none"> 体験乗船の心得を理解します。 操練を体験し、緊急避難について理解します。 出入港作業や体験当直・操舵体験を通して、海のあらましや船のあらましについて理解を深めます。 <u>乗組員の仕事内容、船内生活について理解します。</u> <u>釣りを基本とした漁業体験をし、そこに生息する魚に対する知識や漁業に対する知識を身に付けます。</u> <u>実習船を動かすために必要な各種資格について勉強します。</u> <p>*海象により体験乗船の内容を変更する場合があります。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験乗船の注意事項を守り、安全を確保するとともに、集団の中で協調性を発揮するなど意欲的に実習に取り組んでいる。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> 船や海について思考を深め、疑問や課題に対して適切に判断し、答えを導き出している。 <p>《キャリア発達》</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>職業としての、船の仕事内容について理解している。また、実際に船に乗るためにはどのような勉強・資格が必要か理解している。</u> <u>体験的な漁業実習を通して、海洋環境に対する興味を持ち、また、産業としての漁業について、理解を深めている。</u> <u>技術を身に付けるための、「見て・聞いて・やってみて」といったことを実践している。</u> <u>一人の力が、船(集団)全体に与える影響について、十分に理解している。</u> <u>自然を含めた、危険への対処方法をしっかりと身に付けている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の観察 乗船実習ノートの提出

(3) キャリア教育の視点を踏まえた学習内容

【学習指導案】

科目名		水産基礎	使用教材	教科書「水産基礎」(海文堂)
単元		第1章 海のあらし 1 海と生活 1.1 人間と海 (1)海と水産業		
本時の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・人間と海とのかかわりの歴史で、水産業が最も密接なかかわりを持ってきたことを認識させる。 ・水産業の発展の歴史を理解させ、人間の貴重な食料である水産資源が、現在どのような状態にあるかを考えさせる。 ・職業としての水産業について、理解を深める。 		
評価の観点	関心・意欲・態度	・海と人間のかかわりに興味や関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。		
	思考・判断	・水産資源・海洋環境などに関する諸問題について、自らの生活と関連づけて考えている。		
	技能・表現	・水産資源・海洋環境などに関する諸問題について、自分なりの意見を的確に表現している。		
	知識・理解	・海と人間のかかわりを歴史的、経済的にとらえ理解している。		
	キャリア発達	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前の準備や授業中の態度、始業・終業の挨拶、授業中の発言方法や言葉遣いを身に付けている。(毎時間の観察) ・古代から漁師が存在し、水産物の保存も行われていたことを理解するとともに、水産業にかかる様々な職業の役割を認識している。 		
留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・教科「水産」の基礎となる科目への導入部分であるため、「海」「水産業」に対する興味・関心を抱かせるような効果的な視聴覚教材を取り入れる。 ・授業に望む姿勢をしっかりと把握できるように、できるだけ多くの生徒とコミュニケーションを図り、一人ひとりの個性を、少しでも早くつかむように努める。 		
時間	指導項目	指導内容		留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> 出欠確認 ワークシート返却 「水産業」とは何か 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回提出のワークシート(水産に対するイメージ)を返却し、そこから「水産業」を抜き出す。 ・世界中の「水産業」にかかわる写真・映像を見せ、イメージをひろげる。(例:エジプトの壁画、貝塚捕鯨、築地のマグロ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの表情を確認しながら、出欠は時間をかけてとる。
展開	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・有史以来の人類と海のかかわり。 	<p>発問内容 まとめ</p> <p>板書事項</p> <p>人類と海のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代人 住居付近にある貝塚から貝類・かきが出土 浅瀬の水産物(食料)を拾い集めた ・エジプト人 壁画や小船の模型 熟達した漁師=「漁業」 ・ローマや東洋でも海産物は貴重な食料源 	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答で生徒の様子をしっかりと観察する。いかに古くから「水産業=漁業」が人類にかかわっていたかを理解させる。 ・机間指導でノートの取り方等を確認する。
	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・漁具や漁法の進歩 	<p>発問内容 まとめ</p> <p>板書事項</p> <p>漁具漁法の進歩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何千年も前から各種漁具(網・やす・釣針)が存在 進歩にともない大量の魚が捕れるようになる ・長期保存の必要性により干物・薫製・塩漬け等の「水産加工」が行われる ・16世紀~19世紀 船上での塩漬け・帆船から汽船・氷の持ち込み ・第二次世界大戦後 大型の網、魚群探知機、漁具操作の機械化 ・漁獲量は飛躍的に増加したが、魚種によっては資源の枯渇を招いた ・「資源管理」の徹底が最重要課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答で生徒の様子をしっかりと観察する。漁業以外にも「水産加工」が古くから人類とかかわっていたことを理解させる。 ・机間指導でノートの取り方等を確認する。
開	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の「水産業」のかかえる課題と解決方法について。 	<p>ワークシートによる</p> <p>水産基礎「海と生活」1.1 人間と海 (1)海と水産業 氏名 _____</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今あなたが「水産業」という言葉からイメージすることは、どんなことか。 _____ 2. 現在の水産業がかかえる課題はどのようなものか。 _____ 3. この課題を解決するにはどのような方法があるか。 _____ 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導によりワークシートの進み方を確認する。 ・時間を考慮しながら発表も行う。
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・古代~現代までの「海と人間のかかわり」についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の板書内容を中心とした設問による小テストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着をはかり、定期考査につながる配慮をする。